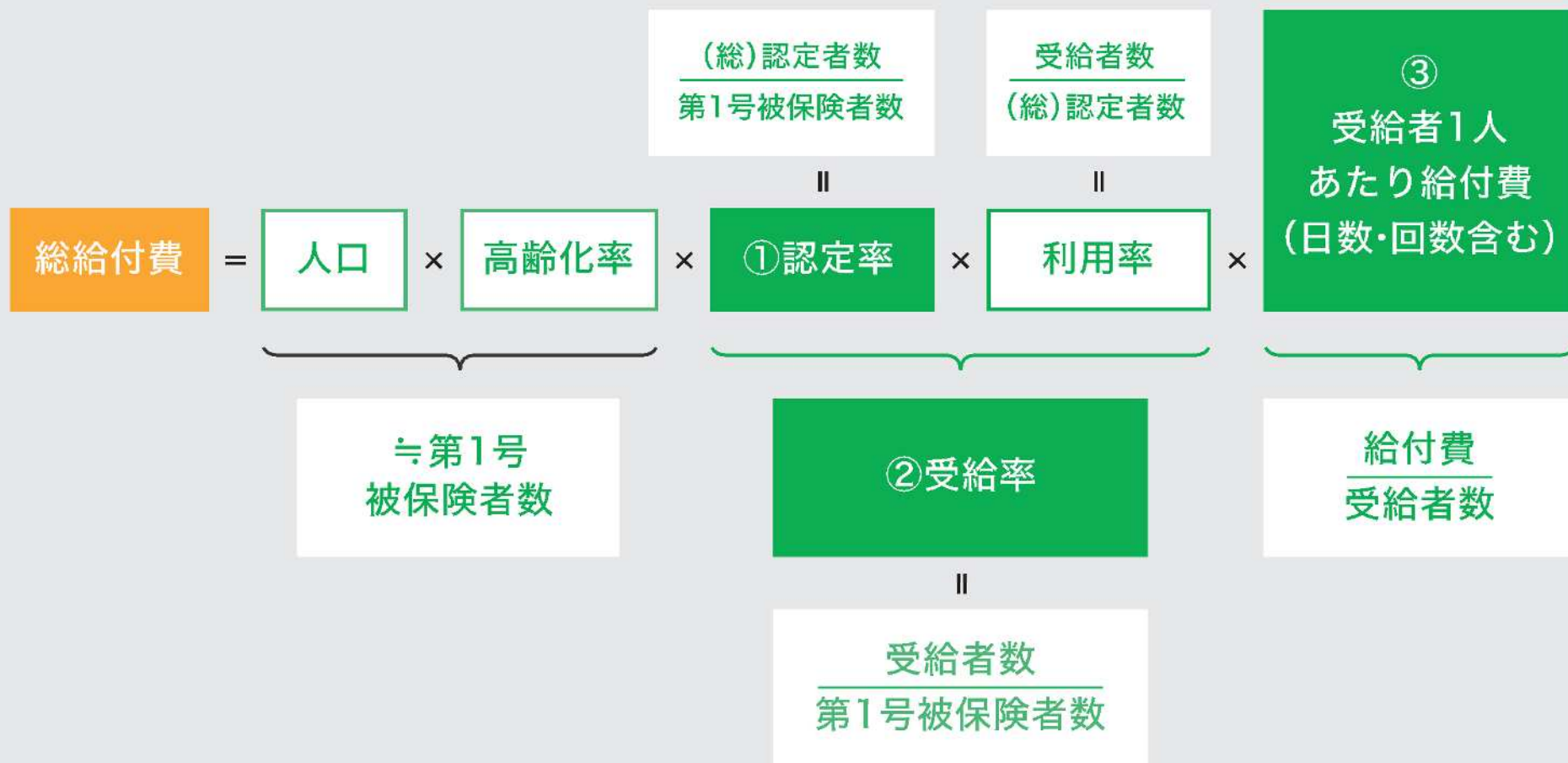


介護給付費の構造



地域が目指すビジョン

大目標

中目標

地域住民がお互いに支え合い、高齢者が住み慣れた地域でいきいきと生活ができるまちづくり

介護予防・
生きがいつくり

地域における
包括的な支援
体制づくり

認知症に
関する体制強化

高齢者
権利擁護の推進

介護サービス
基盤の整備

重点目標

1

重点目標

2

重点目標

3

重点目標

4

重点目標

5

・健康づくりの推進

・介護予防の普及啓発

・高齢者の社会参加促進

・生きがいつくり

・介護予防ケアマネジメントの推進

・地域包括支援センターの
機能強化

・在宅医療の推進

・生活支援体制の整備

・認知症に関する理解促進

・高齢者虐待防止体制の強化

・2040年を見据えた介護
施設等の整備

・介護保険制度の適切な運営

・介護人材の取り組み

主な取り組み

- ①保健事業と介護予防の一体的な実施 (R3.4~)
- ②効果的な介護予防の発信 (継続)
- ③社会参加を軸としたイベント・セミナー (R3.4~)
- ④高齢者の社会参加の促進 (継続)
- ⑤介護予防ケアマネジメントの手引きの作成 (R3.3)
- ⑥圏域の見直し、公募の活用 (R4)
- ⑦医療と介護との連携、地域医療体制の充実 (H29~)
- ⑧認知症サポーター養成、認知症カフェ、チームオレンジの推進 (継続)
- ⑨生活支援コーディネーターによる地域資源開発 (継続)
- ⑩地域包括支援センターとの連携の強化 (継続)
- ⑪推計に基づく需要のピークを勘案したサービスの整備
- ⑫介護給付適正化の推進 (継続)
- ⑬介護業界の魅力発信、求職者とのマッチングイベントの開催(R2~)

※介護保険事業計画記載内容より

①保健事業と介護予防の一体的な実施

市町村の実施する保健事業（国保、後期高齢者医療）と介護予防を一体的に実施することで、より継続的かつ効率的な取り組みとする。



行政課題（高齢者の社会参加率の向上）を解決することでインセンティブを付与する成果連動型委託契約とし、毎年成果指標を見直すことでより効果的な事業となるよう取り組んでいく。

②効果的な介護予防の発信

既存の介護予防教室や講座を継続しつつ、より主体的な活動とするため、自主グループの立ち上げを推進。



新たに配置した有資格の市職員（理学療法士）が、市実施の介護予防教室の修了生で構成する自主グループを立ち上げた（市内4か所）。今後も新規グループの立ち上げ支援を行っていく。

③社会参加を軸としたイベント・セミナー

本市の特徴※として、通いの場の企画運営意向は低く、社会参加率も高くはないこと。また、社会参加率向上は介護予防に一定の効果があることから上記課題解決に取り組む



※介護予防日常生活圏域ニーズ調査より
教室や講座などの知識の普及啓発や身体的な介護予防活動だけでなく、趣味活動などにより社会参加自体を促すイベントや講座を市が実施することで高齢者の社会参加率を向上させる。（①と同事業）

④高齢者の社会参加の促進

社会的なつながりをもつことで介護予防の推進を図る。高齢者の居場所や生きがいを支援することで、社会参加を促進し、閉じこもりを防止する。



ふれあいサロン、街かどデイハウス、高齢者菜園など、高齢者の生きがいを支援を行っていく。

⑤介護予防ケアマネジメントの手引きの作成

多職種による自立支援の検討を行う自立支援型ケア会議での事例などから抽出した地域のケアマネジメントの指針について、市独自の指針として作成し、発信を行った。



今後も自立支援型ケア会議を通じて、事例検討を行い、本指針の校正を繰り返していく。

⑥地域包括支援センターの圏域の見直し、公募の活用

高齢者人口の増加や高齢者を取り巻く問題の複雑化、複合化に備え、地域包括支援センターの機能強化を図るため、現圏域の見直しや委託先法人の選定の公募を行う。



圏域見直しのうえ公募を実施し、令和5年度以降の委託先法人が決定。新体制での運営開始に向けて、引継の準備等を進めていく。

⑦医療と介護との連携、地域医療体制の充実

市内の医療機関の中核を担う市立池田病院に人材を配置し、医療と介護の連携が行われるよう入退院に関するサポートや研修会、地域住民への普及啓発などを行う。



地域の資源を勘案した在宅療養生活の体制整備の検討や個別の在宅医療・介護に関する相談支援の充実を図っていく。



②：呉服会館で活動する自主グループ

⑧ 認知症サポーター養成、認知症カフェ、チームオレンジの推進

認知症の方やその家族が自分らしく暮らし続けるために地域の認知症に対する理解促進や認知症支援体制の強化を図っていく。



警察、病院、民生委員、地域包括支援センター等と連携し、認知症啓発イベント「オレンジフェスタ」を開催。認知症に対する理解の促進と、介護者家族支援の取組を行った。

⑪ 推計に基づく需要のピークを勘案したサービスの整備

2040年を見据え、地域ごとの人口構造などによるサービス量のピークを推計し、段階的に整備を行っていく。施設、居住系サービス需要による地域密着特養、GHを整備予定。



今後も高齢者人口のピークを勘案しつつ、特別養護老人ホームの待機者数やサービス需要の変化などを経年比較し、地域のニーズに応じたサービスの整備を行う。

⑨ 生活支援コーディネーターによる地域資源開発

生活支援コーディネーターを配置し、地域資源の把握やニーズ調査を行い、買い物困難地域への移動販売や男性向けの介護教室などを立ち上げた。



把握・開発した地域資源情報を情報システムを用いて市民や介護関係者向けに発信していく。

⑫ 介護給付適正化の推進

介護保険制度の持続可能性の確保を図るため、介護給付適正化計画（介護保険事業計画P81）に基づき、ケアプラン点検や住宅改修・福祉用具貸与に係る適正化などに取り組む。



介護予防・重度化防止を推進することで介護給付の適正化も図ることができることから、他の事業と連動性をもって実施していく。また、各事業所への情報発信やケアマネジャー連絡会の開催なども拡充する。

⑩ 地域包括支援センターとの連携の強化

相談件数の増加や複雑化・複合化する問題に対応するため、研修等を充実させるとともに、地域包括支援センターとの連携強化を図っていく。



医師による対応力向上研修や虐待・困難事例の検討会を引き続き行っていく。また、相談窓口（地域包括支援センター）の周知を図る。

⑬ 介護業界の魅力発信、求職者とのマッチングイベントの開催

介護業界の魅力発信を市内事業所と連携し、市内小学校での講演会を開催。また、ハローワーク池田と共催で求職者向けにセミナー及びマッチングイベントを実施。



ハローワーク池田と共催で就職相談と面接会が一体となったイベントを実施。本イベントを継続的なものにするとともに、市内小中学校への福祉教育のアプローチや、外国人材の支援の検討も行う。

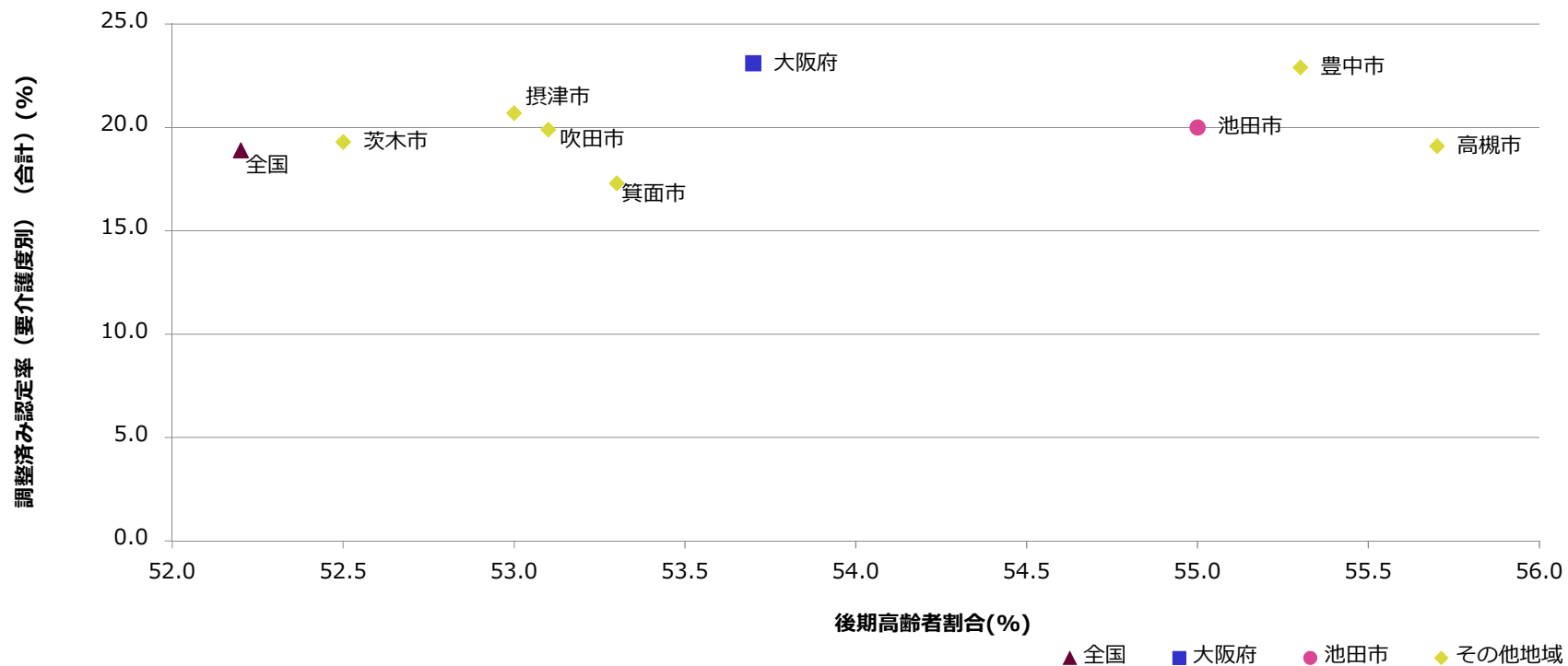


⑧：認知症啓発イベント「オレンジフェスタ」



⑬：ハローワーク池田と共催で実施した就職相談・面接会

令和3年（2021年）調整済み認定率（要介護度別）（合計）と後期高齢者割合の分布



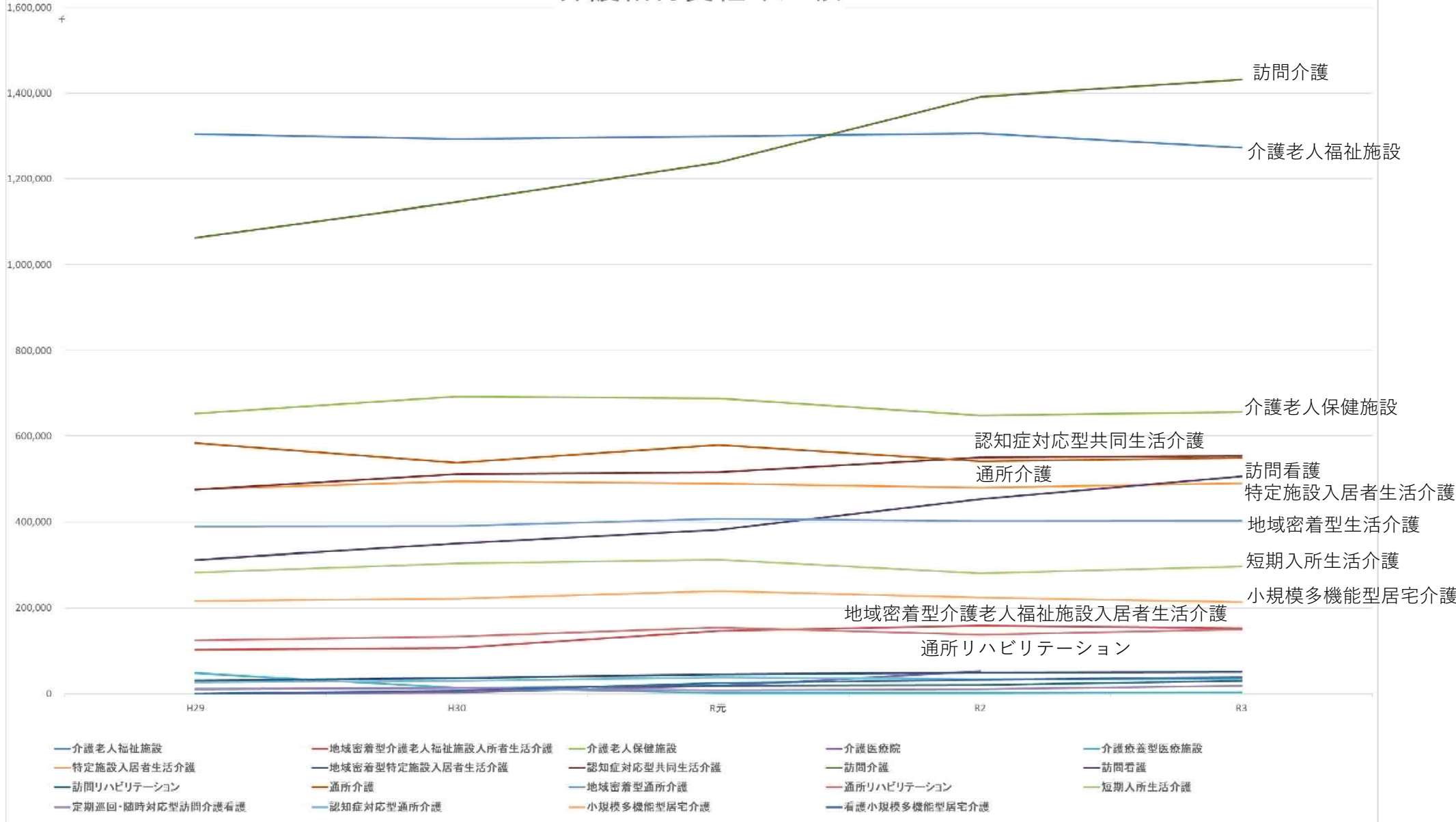
（時点）令和3年(2021年)

（縦軸の出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

（横軸の出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報

		全国	大阪府	池田市	豊中市	吹田市	高槻市	茨木市	箕面市	摂津市	
【地域】	合計調整済み認定率	(%)	18.9	23.1	20.0	22.9	19.9	19.1	19.3	17.3	20.7
	後期高齢者割合	(%)	52.2	53.7	55.0	55.3	53.1	55.7	52.5	53.3	53.0

介護給付費経年比較



受給者1人あたり給付費経年比較

(各サービスの給付費を同サービスの受給者数の総和で除したものの)

